

平成 28 年 5 月 24 日

各 位

四国紙パルプ研究協議会
(公社)愛媛県紙パルプ工業会

四国紙パルプ研究協議会平成 28 年度第 1 回講演会のご案内

拝啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、下記要領にて、平成 28 年度四国紙パルプ研究協議会第 1 回講演会を下記のとおり開催いたしますので、ご多忙中とは存じますが、多数ご出席下さいますよう、ご案内申し上げます。 敬具

記

日 時 平成 28 年 6 月 7 日(火)
15:00~16:40 四国紙パルプ研究協議会 平成 28 年度第 1 回講演会
会 場 愛媛県産業技術研究所紙産業技術センター 研究交流棟 2 階 研修室
愛媛県四国中央市妻鳥町乙 127 TEL 0896-58-2144
講演会 ※共催：(一財)四国産業・技術振興センター
開会挨拶 (15:00~15:05)

講演 I 『スラッジ焼却灰の有効利用について』 (15:05~15:50)

丸住製紙株式会社 研究開発部 部長 堀江大介 氏

産業廃棄物として取扱われる製紙スラッジ焼却灰(以下PS灰)の有効利用について、これまで多くの研究がなされ様々な用途が開発されている。製紙会社から企業に委託し、PS灰の有効利用を行っているものの処理費用の負担が大きいのが現状である。そこで過去に行われた研究や調査を踏まえ、新たな視点をもって愛媛大学とPS灰の有効な利用方法につき共同研究を進めてきた。その研究から得られた知見をもとに、昨年末にPS灰を配合したインターロッキングブロックの開発に成功した。研究の背景、要点、今後の開発の課題なども考察する。

講演 II 『製紙工場における効果的な防虫技術の開発と展望』 (15:50~16:35)

イカリ消毒株式会社 技術研究所 研究員 木村悟朗 氏

昨今では、多くの製紙工場が防虫対策の一環でモニタリング調査をおこない、敷地や建屋内に生息する有害生物の種類や量の把握に努め、得られたデータを活用した防虫対策を進めています。一方、得られた同データを防除活動へ活用できていない製造現場も多く、残念なことに毎年同様の調査に多額のコストが費やされ、現場の環境改善が前進しない状況をしばしば目にします。

弊社では、製紙工場における防虫改善を効果的に進めるため、“虫の目カメラ”による飛来昆虫類の誘引光分布調査や波長計測を始めとした様々な診断調査をおこない、科学的なデータ根拠に基づいた有害生物によるリスクの抽出と防除計画を策定します。

本発表では、防虫対策の原則である(工場に虫を)『呼ばない』、『入れない』、『素早い捕獲』を、より高いレベルで実現するために開発した防虫LED照明「エコトロン・ガード[®]」や、徹底的な捕獲防除に焦点を絞った「クリンエコライン[®]GX」など、防虫に特化した効果的な技術手法についてご紹介いたします。

閉会挨拶 (16:35~16:40)

参加要領 下記連絡表にご記入の上、5月30日(月)までにFAXで提出してください。

別紙の通り、紙産業技術センターの研究成果発表会及び普及講習会と併せて開催いたしますので、下記申込用紙に出席の場合は○印をご記入下さい。

(公社)愛媛県紙パルプ工業会事務局行

FAX: 0896-58-6240

事業所名

No.	所属・役職	氏名	紙産業技術センター		四国紙パルプ研究 第1回講演会
			展示会	講習会	
1					
2					

3				
---	--	--	--	--

平成 28 年度 愛媛県産業技術研究所 紙産業技術センター
研究成果展示発表会・普及講習会のご案内

1. 開催日時 平成 28 年 6 月 7 日（火）10:30～14:35
2. 開催場所 愛媛県産業技術研究所 紙産業技術センター 研究交流棟 2 階 研修室
（四国中央市妻鳥町乙 127）
3. 対象 紙産業関係事業者・一般
4. 参加費 無料
5. 受付 （10:00～10:30）

6. 内容

- 1) 研究成果展示発表会 ポスター発表（10:30～12:00）
 - ①セルロースナノファイバー活用に関する取り組み（西田）
 - ②イオン液体（A-STEP）（大塚）（仮題）
 - ③機能性粒子を用いたシート状触媒の開発（藤原）
 - ④高齢者（戦略）（大橋）（仮題）
 - ⑤酵素ラッカーゼを固定化したシート材料の開発（高橋）
 - ⑥乾式不織布製造法による炭素繊維のシート化（小平）
 - ⑦有機酸吸着シートの開発と文化財劣化の抑制（西田）
 - ⑧紙料調成工程におけるマイクロローズ合成の可能性調査（大橋）

2) 普及講習会（13:00～14:35）

- (1) 開会挨拶
センター長 青野 洋一 (13:00～13:05)
- (2) 課題発表
 - ①機能性粒子を用いたシート状触媒の開発
研究員 藤原 健成 (13:05～13:35)
 - ②酵素ラッカーゼを固定化したシート材料の開発
主任研究員 高橋 雅樹 (13:35～14:05)
 - ③平成 27 年度新規導入設備について（事例紹介）
主任研究員 西田 典由 (14:05～14:35)

普及講習会 講演要旨

①機能性粒子を用いたシート状触媒の開発

研究員 藤原 健成

現在、様々な機能を付加させた紙の研究、開発が盛んに行われている。本研究では、機能性粒子の固定化による紙への触媒機能の付加の検討を行った。得られた紙において分析、機能性評価を行ったので報告する。

②酵素ラッカーゼを固定化したシート材料の開発

主任研究員 高橋 雅樹

シリカ微粒子とセルロースナノファイバー（CNF）を主体とする塗料により紙基材表面に塗膜を形成し、さらにシリカ微粒子に酵素ラッカーゼを固定化することで、染料色素の脱色分解に応用可能なシート材料の開発を検討した。

③平成 27 年度新規導入設備について（事例紹介）

主任研究員 西田 典由

平成 27 年度、当センターに「X 線 CT」「生物実体顕微鏡」「ナノ粒子分析装置」「超高速液体クロマトグラフ」の 4 装置が導入された。これらの装置の概要および分析例を紹介する。

